

Informational overview on in-vitro allergy testing

急速減感作療法 - Rush Immunotherapy -

1. 急速減感作療法とは

アレルギー疾患に対する減感作療法はWHOにおいて「アレルギーの自然治癒を促す唯一の治療法」とされ人医でも広く使われているものです。従来の減感作療法の効果は長い経験と実績により証明されているものの、導入当初、1日おきの通院が必要なことが大きなデメリットとなっていました。急速減感作療法とは、通院回数の多い20日間分を1日で収めてしまう方法です。

2. 世界の潮流として、急速減感作のメリットが注目されています

代表的な文献：犬アトピー性皮膚炎(AD)に対する従来の免疫療法と急速免疫療法の比較

Veterinary Dermatology Vol 15 Issue s1 Page 4 - August 2004

R. S. Mueller, K. V. Fieseler, S. Zabel and R. A. W. Rosychuk

要約：痒みの50%以上の改善は、急速免疫療法グループ中では11頭の犬のうち6頭で、従来の免疫療法グループ中では11頭の犬のうち5頭で観察された。病変スコアおよび合計スコアにおける同様の改善は、急速免疫療法ではそれぞれ11頭の犬のうち7頭、および11頭のうちの5頭、従来の免疫療法ではそれぞれ11頭の犬のうち7頭、および11頭のうちの4頭で有意に観察された。急速免疫療法は、従来の免疫療法より高い成功率に結びつく可能性が示唆された。改善は治療開始から6ヶ月以内に見られた。

3. 日本でも1つの開業動物病院で15症例の成果がまとめられて発表されました

『急速減感作療法を行った15症例について - 飼い主様の感想を交えて -』

関内どうぶつクリニック 牛草貴博先生

>>> ポイント <<<

- ①1歳～7歳までのAD犬15症例を対象に急速減感作療法を行った。
- ②維持期での臨床症状が50%以上改善した症例は12/15(80%)だった。
- ③維持期でのオーナーの満足度が得られた割合も同等であった。導入後平均2ヶ月で改善が見られた。
- ④全症例で急速法に起因する重篤な副作用は認められなかった。

>>> 導入までの流れ <<<

全ての犬において、寄生虫疾患、細菌性疾患、その他の除去診断を行った結果、アレルギー疾患が疑われたためにアミノプロテクトケアを用い除去食試験を行った。その結果皮膚の痒み、脱毛、発赤の認められる症例についてWillemseの診断基準に基づき、環境中のアレルゲンによるアレルギー性皮膚炎を疑い感作抗原の特定のために、スペクトラムラボにおいてIgE検査を行った。そのIgE検査の結果に基づきアレルギーベッツサービスを通してU.S. スペクトラム社へ減感作薬を依頼した。

調合された減感作薬は表1のプロトコールに従い皮下注射を行った。また、急速減感作導入時にはアナフィラキシーショックを考慮し、朝から入院にて静脈確保を行った上で開始した。その後も基本的にスペクトラムラボから提示されたプロトコールに従い、減感作薬を皮下注射した。

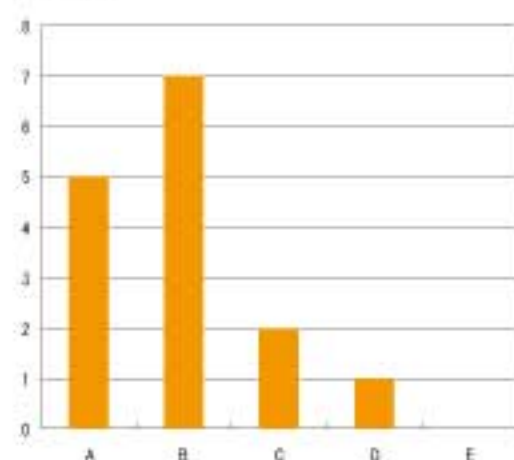
表1 接種プロトコール

バイアル	1日目 注射時間	量(ml)	バイアル	注射日	量(ml)	バイアル	注射日	量(ml)
VIAL A 緑 1:720 W/V	9時	0.1	VIAL B 青 1:180 W/V	5日目	0.1	VIAL C 赤 1:60 W/V	78日目	0.3
	10時	0.2		10日目	0.2		92日目	0.5
	11時	0.4		16日目	0.4		113日目	0.5
	12時	0.6		22日目	0.6		143日目	0.6
	13時	0.8		28日目	0.8		173日目	0.8
	14時	1.0		38日目	1.0		203日目	1.0
	15時	1.0		42日目	1.0		233日目	1.0
	16時	1.0		58日目	1.0		253日目	1.0
	17時	1.0		68日目	1.0			

>>> 結果 <<<

IgE検査の結果、すべての症例で何らかの項目に陽性反応が認められた。その項目に基づきU.S. スペクトラム社で調合した減感作薬が届くまでの間、シャンプー療法のための症例、または痒みが激しい場合にはプレドニゾロンを使用した症例も数例あった。今まで当院で急速減感作導入を行った15症例すべてにおいてアナフィラキシー等の重篤な副作用は認められず、その他確認できる副症状は認められなかった。減感作療法を行った15症例のうち5症例はA（著効）、7症例はB（有効）、2症例はC（やや有効）、1症例はD（変化なし）、E（悪化した症例）は0であった。

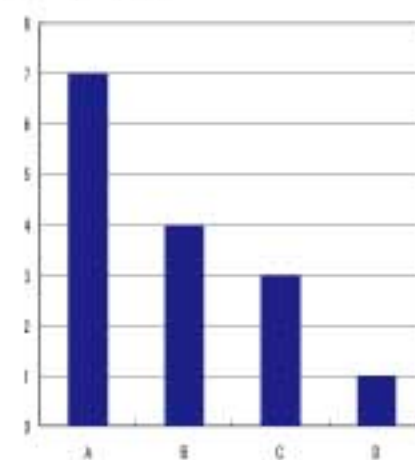
治療評価



治療評価スコア

スコア	評価
A	著効（治療開始前の臨床症状は完全に消失した）
B	有効（治療開始前と比較して、臨床症状は明らかに改善した）
C	やや有効（治療開始前と比較して、臨床症状は改善したが、治療に対する反応は少ない）
D	変化なし（治療開始前と比較して、臨床症状に変化はない）
E	悪化（治療開始前と比較して、臨床症状は悪化した）

オーナー評価



オーナー評価スコア

スコア	満足度
A	とても満足している
B	満足している
C	どちらでもない
D	不満である

この中の2症例について経過を供覧する。

症例1 アメリカン・コッカー・スパニエル 2歳 オス (去勢済み)

1歳になった頃より皮膚がただれてきた。いくつかの病院でアレルギーと診断され、ステロイド剤を中心とした治療を受けてきたものの日々悪化するということで来院。初診時は皮膚全体に痒みがあり、表皮小瘰、脱毛、発赤が多数認められ、外に散歩に行くと皮膚全体が真っ赤に腫れ上がるので散歩には行けないとの主訴であった。

〈治療開始前〉



検査によりマラセチアおよび細菌感染が重篤であったためにそちらを管理しながらインターフェロン療法を開始した。インターフェロン療法開始3ヵ月時には一定の効果が認められ発赤、痒みはかなり軽減されたものの5ヵ月目には効果があまりみられなくなった。オーナーと話し合ったところ減感作療法を希望されたのでIgE検査を行い初診時より8ヵ月目に急速減感作導入を行った。開始後2ヵ月より痒み、発赤の改善が急速に認められ、3ヵ月目にはほぼ症状は認められなくなった。現在開始後約1年2ヵ月経過し、春から夏にかけて一時的に悪化することがあり二次感染のコントロールのために投薬を行う時があるものの、順調に経過している。

〈治療開始後〉



症例2 ブードル 2歳8ヵ月齢 メス (避妊済み)

6ヵ月齢より目の周囲を痒がるようになり、涙が多く出るということで来院。目の周囲は軽度の脱毛と発赤が認められた。眼球および結膜には大きな異常は認められなかった。皮膚一般検査で異常が認められなかったためアレルギー疾患を疑い、アミノプロテクトケアを使用した除去食試験を行ったところ多少の変化はあったものの十分ではなかった。

〈治療開始前〉



オーナーに減感作療法について提案したところ治療を望まれたのでスペクトラム ラボにおいてIgE検査を行った。結果を基に初診時より2年経過後に急速減感作導入を開始した。その後減感作治療を継続したところ約2ヵ月後には目の周囲の皮膚症状は消失し発毛が認められた。現在治療開始後1年を経過しているが順調である。

〈治療開始後〉



>>> コメント <<<

減感作療法はスペクトラム社が提供するプログラムで同社が行う IgE 測定をもとに製造された。採血のみでデータをとることのできるこのプログラムの大きな利点は、導入が非常に簡便で、患者の負担が少ないことである。また当院では、従来行ってきた減感作療法は注射のための来院負担が導入の大きな壁となり、なかなか症例が集まらなかった経緯がある。今回行った急速減感作療法は通常法に比べ来院頻度を大きく減らすことができ、導入の敷居が下がったため治療希望者が大きく増加した。過去の文献では急速法は通常法に比べてその治療成績、リスク等に差がないことが報告されている。今回我々が得た結果においても過去に通常法で報告している結果と大きな差がないことがわかった。またオーナーに行ったアンケートの結果は我々が判断したスコアと比べて多少の相違があるもののほぼ近似した感想を得ることができた。

本報告は第 30 回動物臨床医学会年次大会（大阪）において発表された一般口演の講演要旨に加筆したものです。
牛草真博, 中村孝行, 野田正志, 土屋和弘 (2009) : 「急速減感作療法を行った 15 症例について - 飼い主様の感想を交えて -」
第 30 回動物臨床医学会年次大会プロシーディング No.3 p5-8

減感作療法 はじめてみませんか？

・ ・ 欧米では、アトピー性皮膚炎治療のスタンダードです ・ ・

SPOT TEST の検査結果から、食物・ブドウ球菌を除く、擬陽性以上の反応を示したアレルゲンを対象にオーダーメイドの減感作業を作ることができます。

SPOT TEST の結果 (1 年以内) に基づく減感作業オーダーに必要なものは、下記 3 点です。

- ・ オーダー表の FAX
- ・ 料金のお振込み
- ・ 初回のみ、先生の獣医師免許証のコピーの FAX (A4 サイズ)

オーダー成立により輸入代行会社のアールケイベッツサービスが順法的に手続きを行い、オーダーより約 2～3 週間で先生のお手元に減感作業が到着いたします。適応症例についてのご相談や、到着後の治療に関しても、サポートさせていただきます。



減感作業の個人輸入に関してのお問合せは

(有)アールケイベッツサービス

TEL 03-5731-6966 FAX 03-5731-6967

月曜日～金曜日 午前10時～午後5時



出張セミナー実施のご案内



減感作療法をはじめとした 動物にやさしいアレルギー治療の出張セミナー を実施しております。お電話か E-mail にてご連絡ください。

※交通費のご負担をお願いしております。

日程の調整などを含めて、詳細を担当獣医師より返信させていただきます。



スペクトラム ラボ ジャパン 株式会社

〒152-0034 東京都目黒区緑が丘1-5-22-201

TEL 03-5731-3630 FAX 03-5731-3631

E-mail: info@SLJ.co.jp

http://www.SLJ.co.jp